令和7年度

大学生の力を活用した集落復興支援事業 実施報告書
福島県昭和村 小野川地区

専修大学 商学部 渡邊隆彦ゼミナール

目次

1. はじめに

1-1 活動背景

2. 小野川地区データ

2-1 地区概要

3. 調査概要

3-1 活動目的

3-2 活動内容紹介

4. 調査スケジュール

4-1 第1回（7月18日～19日）

4-2 第2回（9月15日～17日）

4-3 第3回（11月7日～9日）

5. 調査結果

5-1 小野川地区の現状

5-2 発見した課題

6. 提案

7. 今後について

1. はじめに

1-1 活動背景

近年、過疎化・高齢化の進行により、地域コミュニティの維持が困難となる集落が増加している。特に中山間地域では、後継者不足や情報発信の乏しさが課題となっている。

私たちは商学部に所属し、マーケティング・流通・商業政策・会計学を専門としている。地域資源の価値を整理し、適切なターゲットに届ける方法を考えることは、私たちの専門性を活かせる分野である。

本事業には、商学部ならではの視点から地域課題に向き合い、理論と実践の両面から地域活性化に貢献したいという思いから応募した。

2. 小野川地区データ

2-1 地区概要

福島県昭和村小野川地区は、自然豊かな中山間地域である。

活動前は「高齢化が進む静かな集落」という印象を持っていたが、実際に訪れると、70代から90代の方々が日常的に「お茶飲み」を行うなど、密接なコミュニティが存在していた。

また、

・かすみ草（夏秋期出荷量全国一位）

・国指定伝統的工芸品「からむし織」

といった強みを持ち、文化・産業両面で大きな魅力を有していることが分かった。

3. 調査概要

3-1 活動目的

今年度のテーマは「知る・体験する」である。

十分な理解がないまま施策を打つのではなく、まずは現地に足を運び、地域の一年間の営みを体験し、住民の声を聞くことを重視した。

3-2 活動内容紹介

第1回：からむし織の里フェア出店（販売実践）

大学近くの和菓子店の協力を得て、どら焼き・最中を販売した。

販売を通じて、特産品の訴求方法や来場者の反応を観察した。

からむし織工房の見学も行い、伝統産業の現状を学んだ。

第2回：作戦会議・フィールドワーク

小野川地区の集会に参加し、住民の方々と将来ビジョンを共有した。

地区内を歩き、資源・課題を整理した。

第3回：絵地図作成・交流活動

フィールドワークをもとに「小野川地区絵地図」を作成。

地区の良さと課題を可視化した。

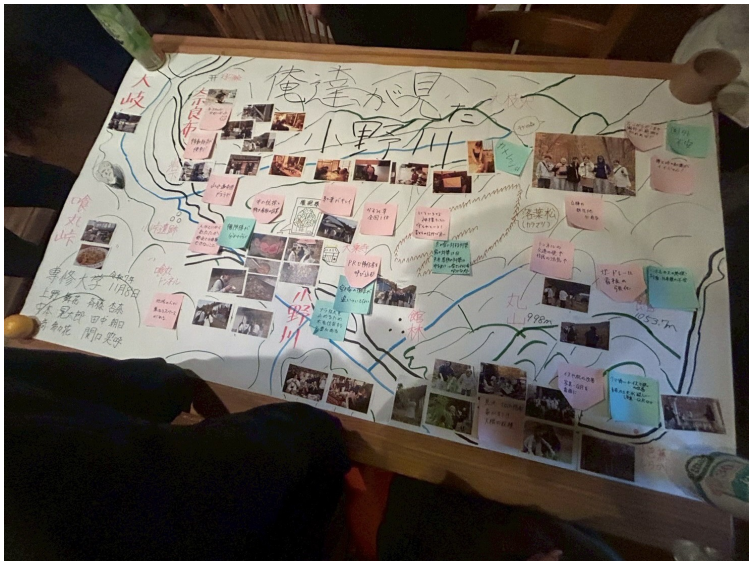
さらに、

・茅刈りイベント参加

・収穫祭参加

・新米・新そば体験

を通じ、住民との交流を深めた。



---

4. 調査スケジュール

4-1 第1回（7月18日〜19日）

・からむし織の里フェア出店

・工房見学

・住民との交流

――

4-2 第2回（9月15日〜17日）

・作戦会議参加

・フィールドワーク

・特産品理解の深化

――

4-3 第3回（11月7日〜9日）

・絵地図作成

・茅刈り体験

・収穫祭参加

・住民との意見交換

――

5. 調査結果

5-1 小野川地区の現状

1. 強力なキーマンと若手移住者の存在
2. ストーリー性のある特産品
3. 温かいコミュニティ文化

5-2 発見した課題

1. コミュニティの持続性
2. 女性住民との接点不足
3. 農地維持の困難
4. 情報発信の乏しさ
5. 後継者不足

---

6. 提案

① デジタル・マーケティングによる関係人口創出

Instagram・TikTokで若者視点のリール動画を発信。

「小野川の日常」に焦点を当てる。

② 商学部の知見を活かした販売支援

価格設定・陳列・ターゲット分析の支援。

③ 協働による居場所づくり

料理会などを通じた交流機会創出。

——

7. 今後について

来年度は

・デジタル・マーケティングの本格実践

・絵地図を活用した改善活動

を目標とする。

単なる訪問者ではなく、

小野川地区の皆様に寄り添う「パートナー」として、

専門性を活かしながら継続的に関わっていく。